1．点字、楽譜入門

点字の楽譜ってなに？いや、その前に点字ってなに？楽譜ってなに？

今までまったく点字に触れる機会がなかった方、楽譜を知らない方も大丈夫です。この章では点字や楽譜の基本的なところから説明します。

1．1　点字ってなに？

まず点字について、基本的なことをお話しておきます。

点字とは、縦 3 点、横 2 列の 6 個の凸点の組み合わせで表された文字です。いつも横書きで左から右へ読んでいきます。点字の一字を表す縦 3 点、横 2 点の 6 つの凸点を1つの単位とし、これを**マス**といいます。1 マスの中の点の位置は、前のマスに近い側の上から①の点、②の点、③の点、後ろのマスに近い側の上から④の点、⑤の点、⑥の点といいます。

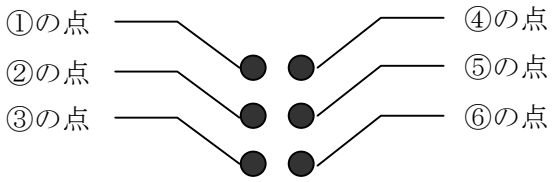


図 1．1.1 各点の名前

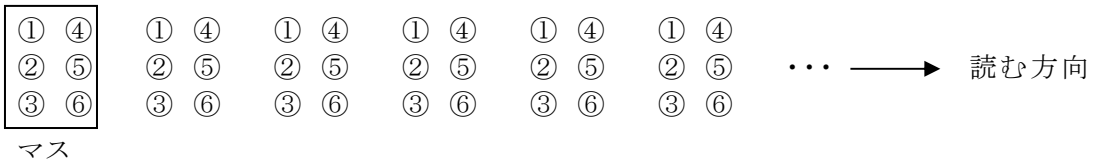


図 1．1.2 点字はいつも横書き

点字は専用のちょっと厚い紙に打ち出します。紙の大きさはいろいろですが、日本では B5 サイズ、1 ページに 32 マス、22 行（片面印刷時）が一般的です。

他にも点字の解説で一般的に使われている言葉や言いまわしが少しあり、本書でも使用していますので説明しておきます。

1．インクなどで書いた文字を**墨字**（すみじ）といいます。そして点字を「⠓⠊⠚」の

ようにインクで書いたものを**墨点字**（すみてんじ）といいます。

点字

「𝄞」は、ト音記号と言います。

墨字

墨点字

図 1．1.3 点字・墨字・墨点字

2．点字が書いてある紙の、点が出っ張っている方の面を凸面、へこんでいる方の面を凹面といいます。点字を読むのは凸面からですが、点字盤など点字を書く道具によっては凹面から書く場合もあります。ビースコア、および本書の説明はすべて凸面です。凸の点を黒丸「●」、平らな点を横棒「－」で表します。

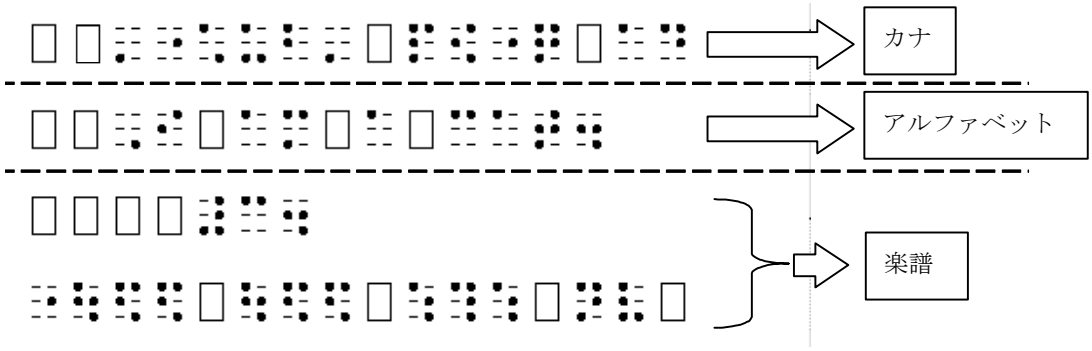
3．点字の点は、丸数字で**①の点**、**②の点**のように表します。また、①の点と②の点が凸の点字「⠃」は、「①②の点」と呼びます。

4．点字楽譜では、「①②③のいずれかの点がくるとき」という表現が出てきます。これは、「①、②、③のどれか 1 つ以上の点が凸である点字が次のマスにあるとき」という意味です。例えば①④⑤の点「⠒」が次のマスのときなどがそうです。逆に「①②③の点がないとき」とは、「①、②、③のどの点も凸でない点字のとき」という意味です。例えば④⑤⑥の点「⠰」などがそうです。

5．1つも凸の点がない点字を**マスあけ**といい、本書では「□」と書きます。通常のパソコン用語に従い「スペース」ということもあります。

アルファベット、数字、日本語のカナは、それぞれの文字に対応した点字が決められています。しかし、それぞれの体系の点字は重なっています。例えば「A」、「1」、「あ」の点字はみんな①の点「⠁」です。どの体系の点字なのかを表す点字はありますが、ほとんど全文がアルファベット、またはカナのときは通常つけません。点字を読むときは、数文字あるいは数行ほど指で触れて、「これは英語らしい」、「日本語らしい」と判断してから読み進めることになります。

楽譜の場合もまた別の体系が決められています。これも非常によくできていて五線譜の情報を正確に伝えることができます。



として読むと・・・・・・・・・

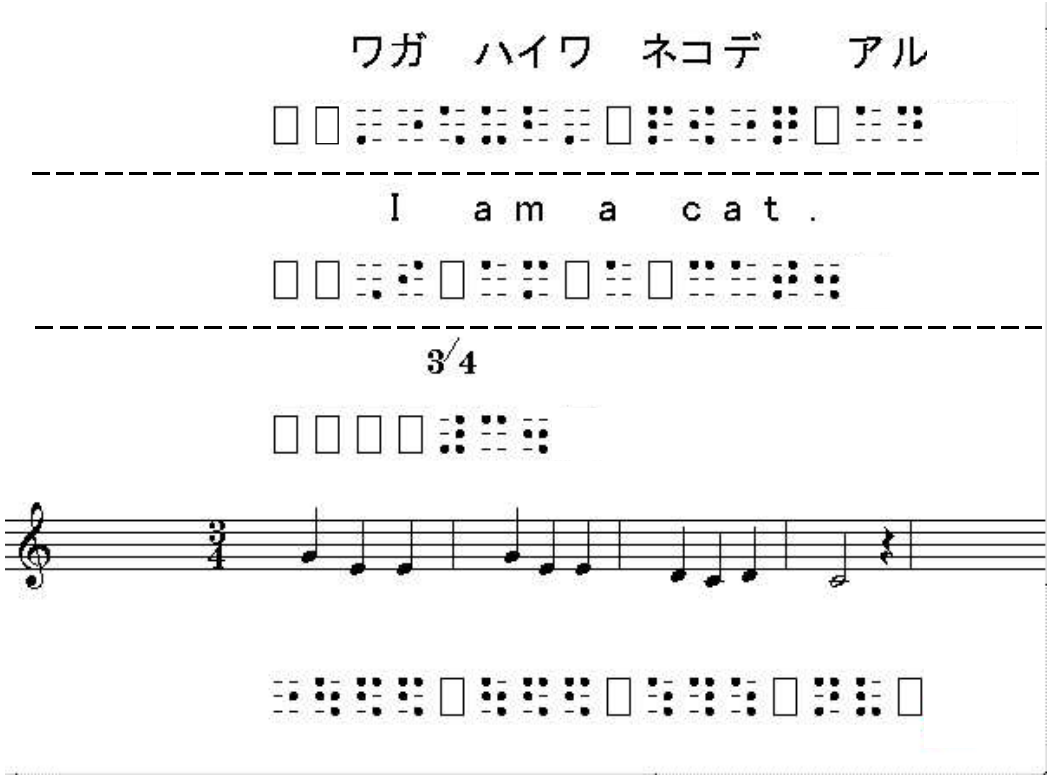


図 1．1.4 点字にはいろいろな体系がある

日本語の一般書の中に点字楽譜が出てくるときには、次のような規則になっています。（「点訳のてびき　第４版　全国視覚障害者情報提供施設協会」を参照）

1．点字楽譜の部分で行替えし、点字楽譜の前置符号（⠸⠸）を前置する、または前後を１行あけるなど、楽譜の始めと終わりを明確にする。

2．文章中に行替えをせずに挿入したいときは、1 マスあけて、点字楽譜の前置符号（⠸⠸）をつけ、終わりは 1 マスまたは 2 マスあける。

１．２　楽譜ってなに？

ここで、点字楽譜と五線譜に共通している、「楽譜」についての基本的なことを、簡単に説明します。

（1）音の名前「音名」

音には名前があります。例えば、ピアノでは 2 種類の大きさの鍵盤が並んでいます。手前の白い鍵盤「白鍵（はっけん）」と、少し奥で上に乗っている、小さめな黒い鍵盤「黒鍵（こっけん）」です。黒鍵はところどころないところがあります。2つ並んでいて1つない、3つ並んでいて1つない・・・をずっと繰り返していきます。2つ並んでいる黒鍵のうち、左側の黒鍵の左下にある白鍵が「ド」です。白鍵の音はこのドから右へ順に、ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ(イタリア式)、またはC、D、E、F、G、A、B（アメリカ式）と呼びます。これが基本の音の名前「音名(おんめい)」です。

音はド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シの順に高い音になっていきます。シの隣はまたドの音名にもどり、繰り返していきます。

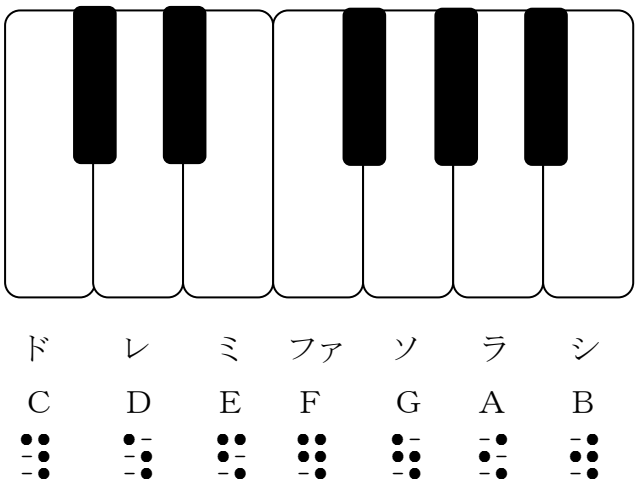


図 1．2.1 音名

（2）音の長さ

点字では、1 つの点字で1つの「音符」、つまり「音名」と「音の長さ」を表すことができます。図 1．2.1の点字は基本の「4 分音符」という長さの音符です。

例えば、「きらきらぼし」という曲では、出だしの音符は「ドドソソララソー」ですが、この「ドドソソララ」は、「4分音符（しぶんおんぷ）」です。そして「ソー」はその 2 倍の長さの「2分音符（にぶんおんぷ）」です。さらにその 2 倍の長さの音符は「全音符（ぜんおんぷ）」と

呼びます。また、「4分音符」の 1/2 の長さの音符は「8 分音符」、さらにその 1/2 の長さの音符は「16 分音符」・・・と、短い音符になっていきます。4 分音符の長さを基準にすると、次のようになります。

全音符　：　4 分音符の 4 倍の長さ

2 分音符　：　4 分音符の 2 倍の長さ

4 分音符

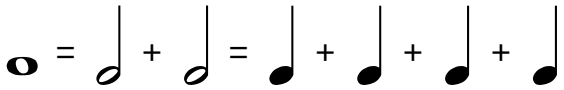
8 分音符　：　4 分音符の 1/2 の長さ

16 分音符　：　4 分音符の 1/4 の長さ

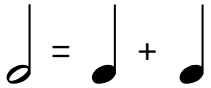
32 分音符　：　4 分音符の 1/8 の長さ

64 分音符　：　4 分音符の 1/16 の長さ

128 分音符　：　4 分音符の 1/32 の長さ



全音符の長さは、2 分音符 2 つと同じ、4 分音符 4 つと同じ



2分音符の長さは、4 分音符 2 つと同じ

4 分音符の長さは、8 分音符2つ、16 分音符 4 つ、32 分音符 8 つ、64 分音符 16 個、128 分音符 32 個と同じ

点字では 2 種類の長さの音符を 1 つの点字で兼用しています。この後に説明する、小節と拍子によって、どちらの長さの音符か読み分けることができます。

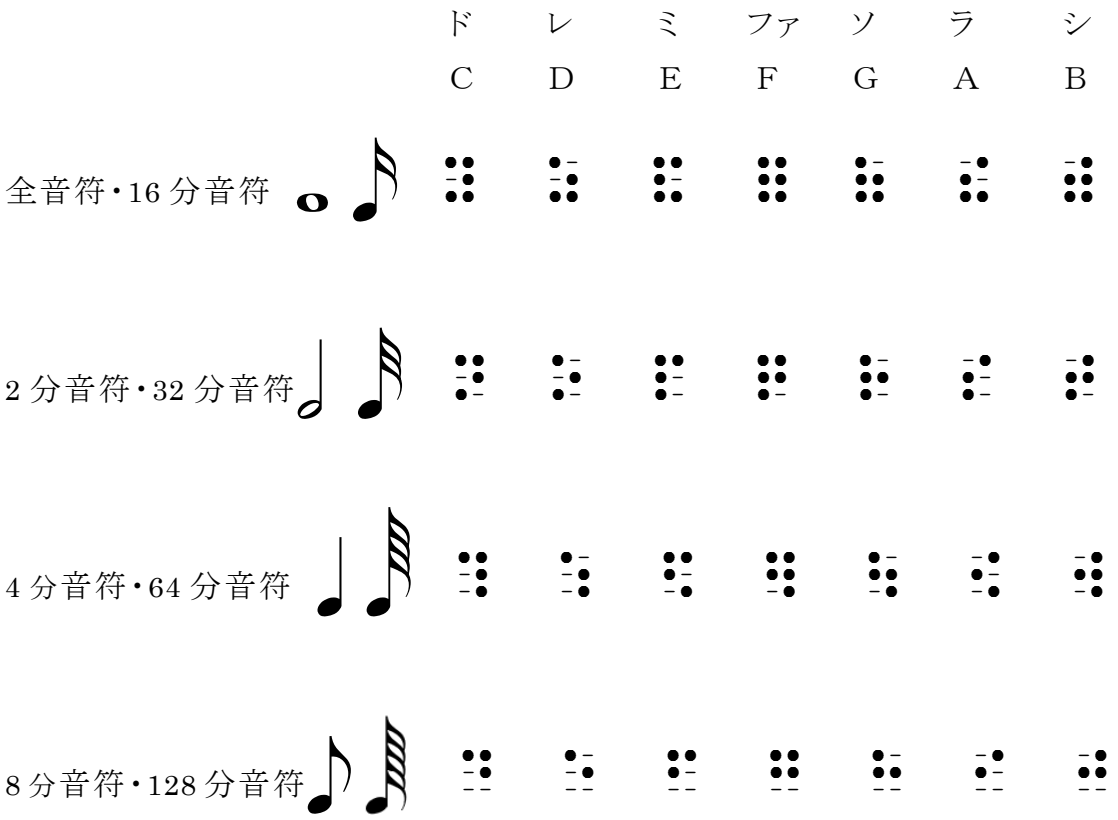


図 1．2.2 音符の点字と記号

この表をよく見ていただくと、点字の上の4つの点、①、②、④、⑤の点で音名を、下の2つの点、③、⑥の点で音の長さを表していることがわかります。

（3）小節と拍子

音楽は、「小節（しょうせつ）」に分かれています。そして1つずつの小節の長さが決まっています。例えば「4分音符4個分の長さ」、「8分音符3個分の長さ」のように表します。これを「拍子記号（ひょうしきごう）」といい、楽譜の最初、または変更したいところに書きます。4 分音符 4 個分の長さの拍子は「4 分の 4 拍子（よんぶんのよんびょうし）」、8 分音符 3 個分の長さの拍子は「8 分の 3 拍子」と呼びます。点字では

1. 数符（＊ページ参照）
2. 音符の数
3. 下がり数字（＊ページ参照）で音符の種類の数字

の順に書きます。

4 分の 4 拍子

8 分の 3 拍子

図 1．2.3 拍子の点字と記号

小節の区切りは、五線譜では縦棒の「小節線」を書きます。点字では「マスあけ」をします。

それでは、「きらきらぼし」の楽譜を読んでみましょう。この楽譜は 4 分の 4 拍子なので、それぞれの小節の中が、4 分音符 4 個分の長さになっています。最初の 4 分音符ドの前の5の点については、次に説明します。

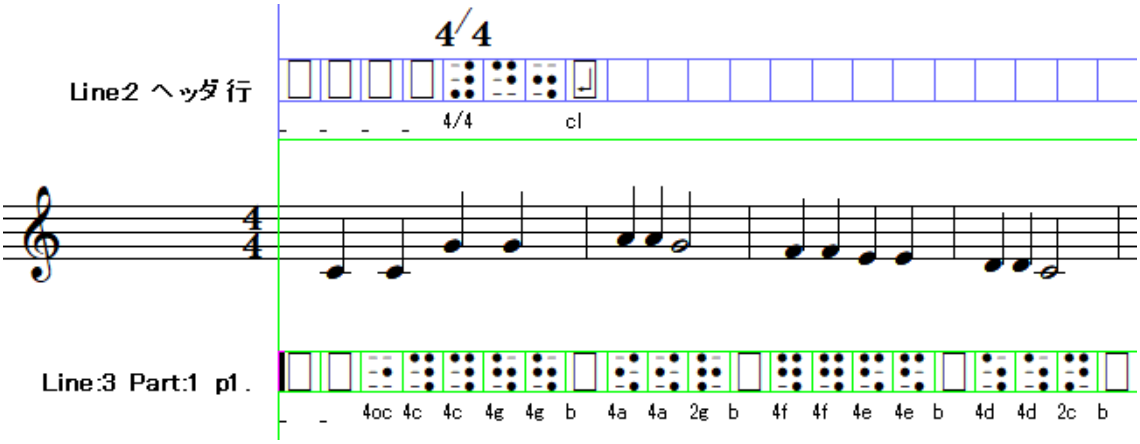


図 1．2.4 「きらきらぼし」の楽譜

（4）音列（オクターブ）

88 鍵のピアノには、ドレミファソラシの鍵盤が7つずつ、ラシドはさらにもう1つずつあります。ですから、「ド」と言われても、どの「ド」なのか分かりません。これを区別するのが「音列(おんれつ)」です。ピアノのほぼ中央にあるドから始まるドレミファソラシが第 4 音列(上 1 点音)、その右のドレミファソラシが第 5 音列（上 2 点音）です。逆にピアノのほぼ中央にあるドから左のシラソファミレドが第 3 音列(カタカナ音)、さらに左のシラソファミレドが第 2 音列(ひらがな音)、さらに左のシラソファミレドが第 1 音列(下 1 点音)です。

点字ではこの音列を表す「音列記号（オクターブ記号）」を音符の直前につけます。

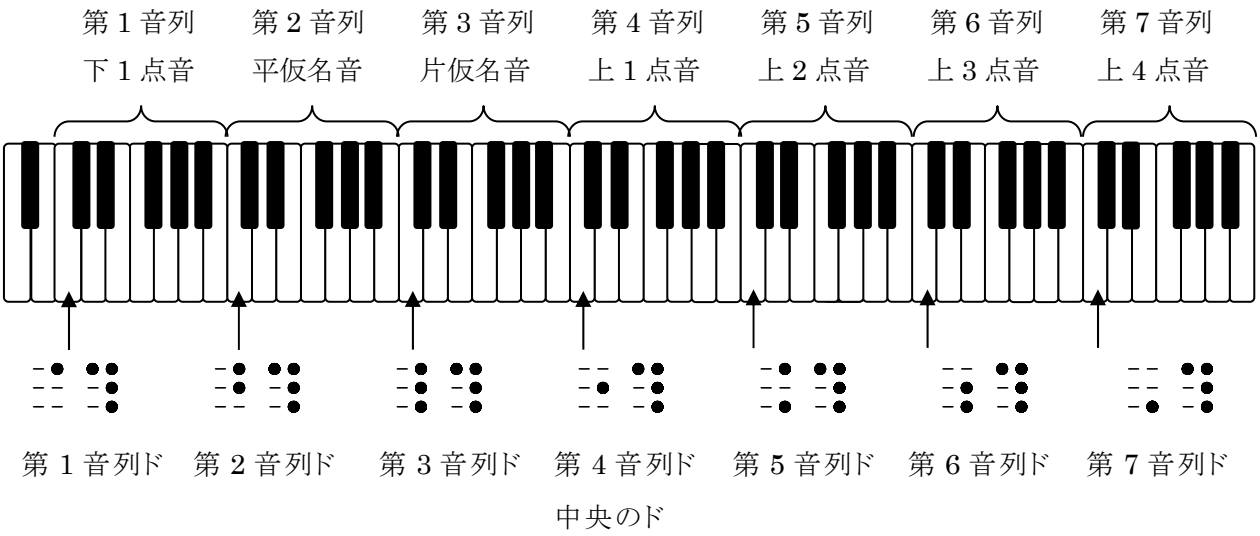
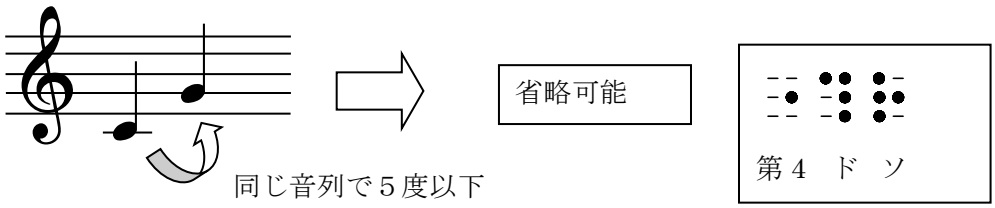


図 １．2.5 音列記号（オクターブ記号）

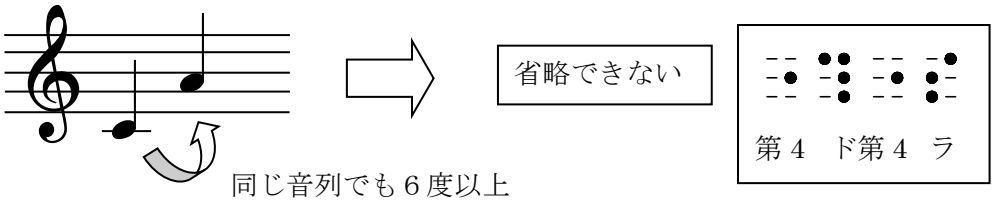
音列記号は、すべての音符に必要ではありません。曲の最初の音符には必要ですが、そのあとは、前の音符と「あまり離れていない」ときは省略してよいことになっています。同じ音列ならば、ドからソまで、レからラまで、ミからシまでに移るときは、省略できます。隣の音列に移る場合でも、ドから下のラまで、レから下のシまでに移るときは省略できます。

ここで、音の隔たり「音程（おんてい）」の数え方を説明します。音程は度数で数えます。同じ音、例えば第 4 音列ドと第 4 音列ドの音程は、1 度と数えます。隣の音、例えば第 4 音列ドと第 4 音列レの音程は 2 度と数えます。第 4 音列ドと第 4 音列ミの音程は 3 度、第 4 音列ドと第 4 音列ソの音程は 5 度です。間に黒鍵があるかないかは、関係ありません。

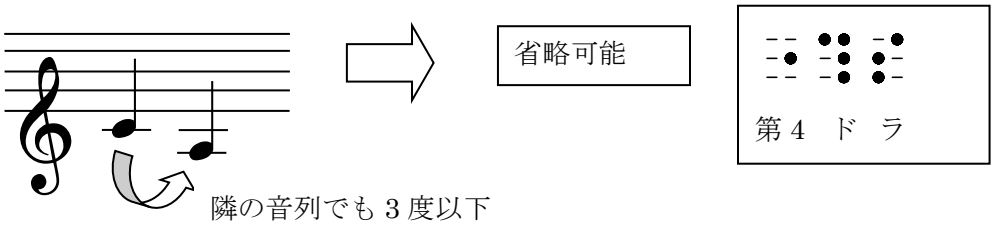
音程で先ほどの、音列記号を省略できるところを説明すると、**「同じ音列で 5 度以下なら音列記号を省略してよい。隣の音列で 3 度以下なら音列記号を省略してよい。」**ということになります。



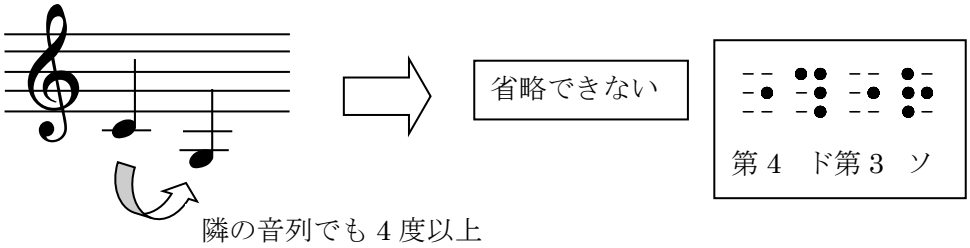
第 4 音列ド→第 4 音列ソ



第 4 音列ド→第 4 音列ラ



第 4 音列ド→第 3 音列ラ



第 4 音列ド→第 3 音列ソ

図　1．2.6　音列記号が省略できるところ、できないところ

＊ページの「きらきらぼし」の楽譜は、最初に第 4 音列の点字がありますが、そのあとの音程は 5 度以下で続いて行きますので、音列記号の点字はずっと省略可能です。

（5）臨時記号

ピアノの黒鍵の音を表したいときなどにつける記号があります。白鍵の右上の黒鍵の音は白鍵の音の前に**シャープ＃**「 ⠩ 」をつけます。白鍵の左上の黒鍵の音は白鍵の音の前に**フラット♭**「 ⠡ 」をつけます。

このように、音符の前につけたシャープやフラットを**臨時記号**と呼びます。

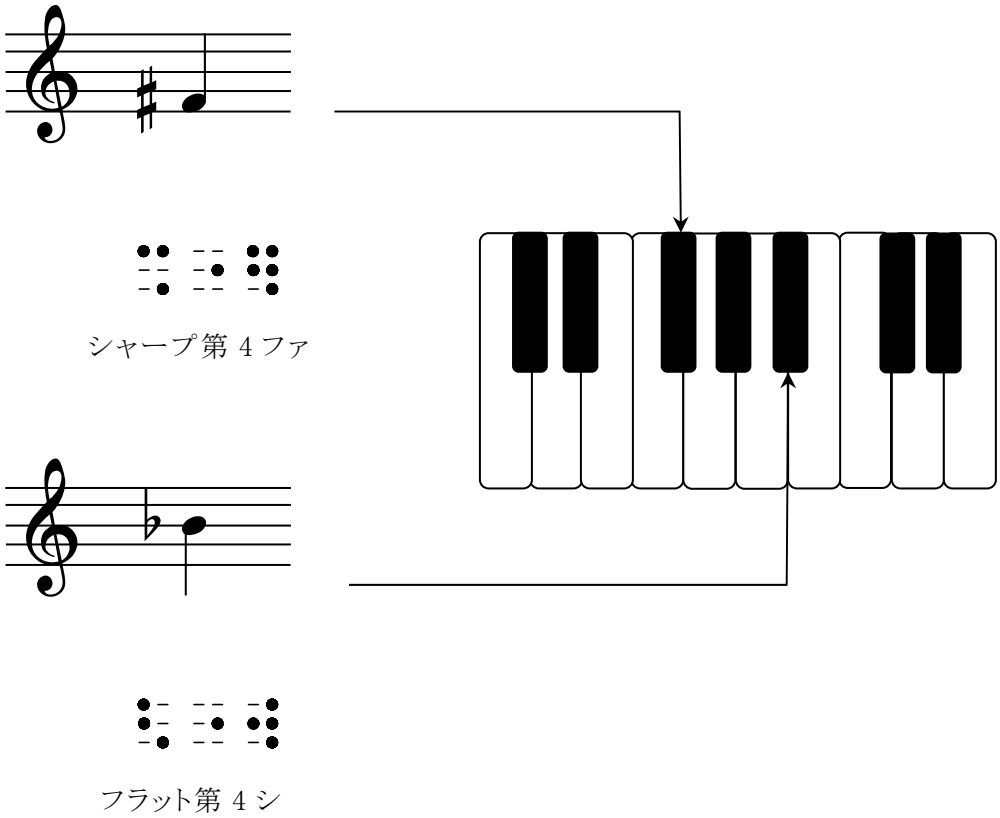


図 1．2.7 臨時記号

いちど臨時記号をつけた音は、その小節の終りまで、出てくるたびに臨時記号がついた音になります。臨時記号をつけた音を、その小節の途中で臨時記号なしの元の音に戻したいときは、**ナチュラル**♮「 」をつけます。

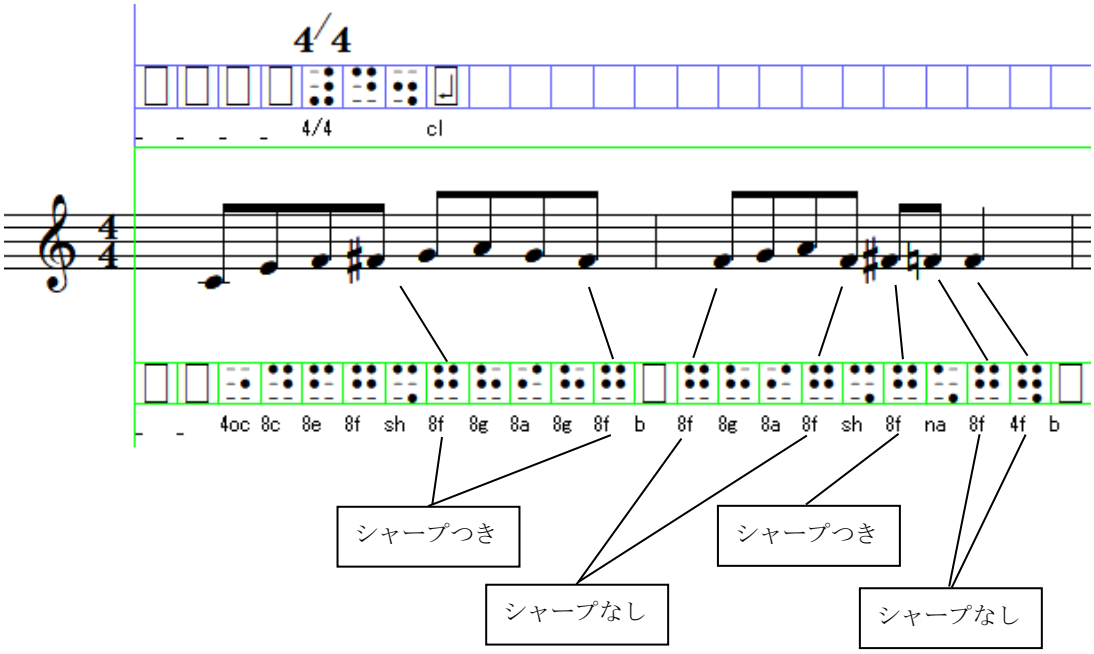


図 1．2.8 小節中の臨時記号の影響範囲

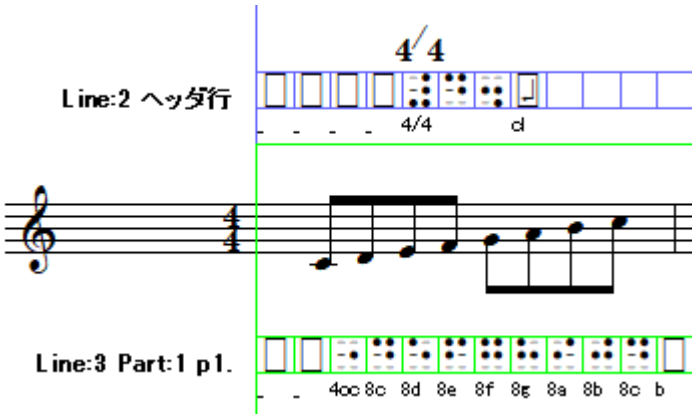
（6）調号

今まで出てきた、「ドレミファソラシド」のような音の階段を**音階**（おんかい）といいます。また、音階の最初の音を**主音**（しゅおん）と呼びます。「ド」が主音のこの音階を「ハ長調」と呼びます。日本名で音名を「ハニホヘトイロハ」と呼び、音階ではこの音名を使うため、ド長調でなく、ハ長調になります。

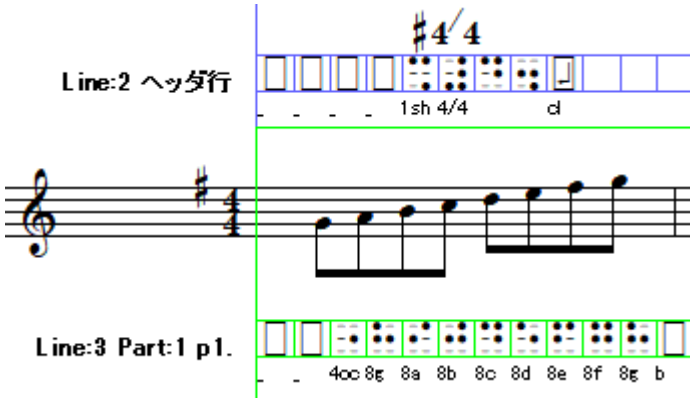
そして、ハ長調などを別の調に変えて、全体の音をずらして演奏することがあります。カラオケでキーを変えるのがそれです。このとき、楽譜では、楽譜全体の音符をずらすとともに、決まった音にシャープやフラットをつけることになります。このシャープやフラットは**調号**といい、点字では楽譜の最初や、曲の途中で変わるときに書きます。五線譜では、行が変わるたびに書きます。

シャープもフラットも、1～7個つけられるので、合わせて14種類、それにハ長調が加わり、15種類の長調があります。

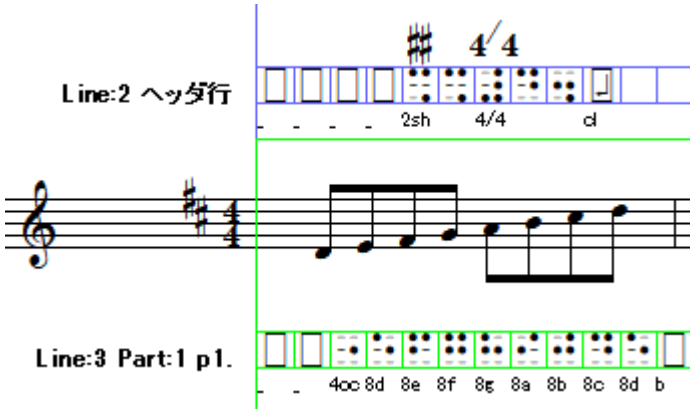
ハ長調(主音はド)



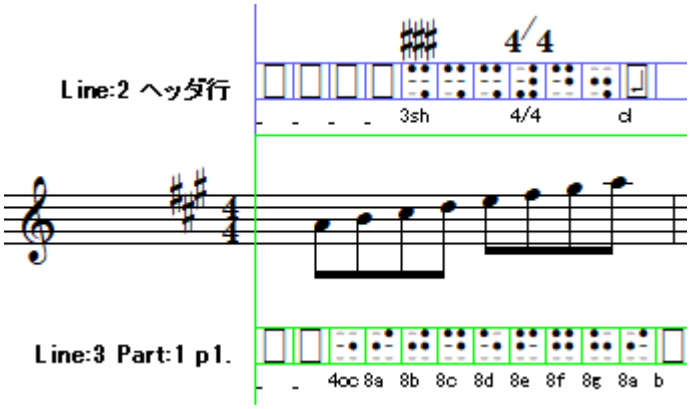
シャープ1つ　ト長調(主音はソ。ファにシャープがつく)



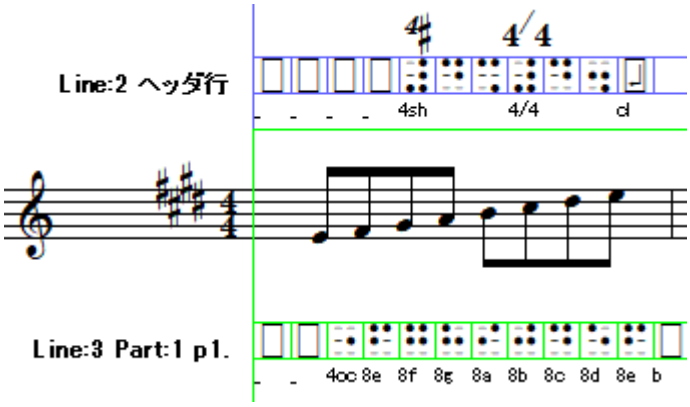
シャープ2つ　ニ長調(主音はレ。ファ・ドにシャープがつく)



シャープ３つ　イ長調(主音はラ。ファ・ド・ソにシャープがつく)



シャープ４つ　ホ長調(主音はミ。ファ・ド・ソ・レにシャープがつく)



以後、シャープ５～７つは頻繁には使わないので省略します。

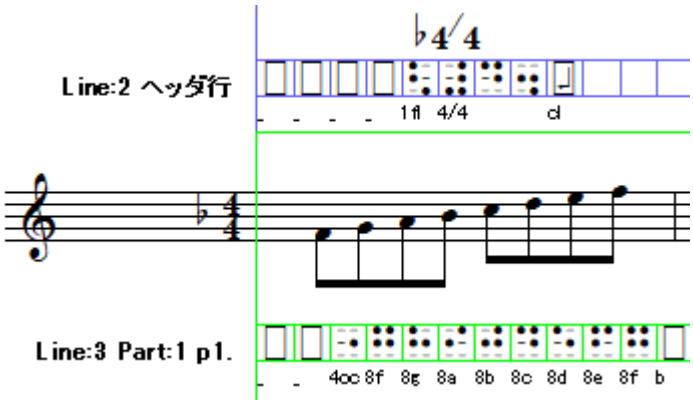
シャープ５つ　ロ長調(主音はシ。ファ・ド・ソ・レ・ラにシャープがつく)

シャープ６つ　嬰(えい)ヘ長調(主音はシャープ付きのファ。ファ・ド・ソ・レ・ラ・ミにシャープがつく)

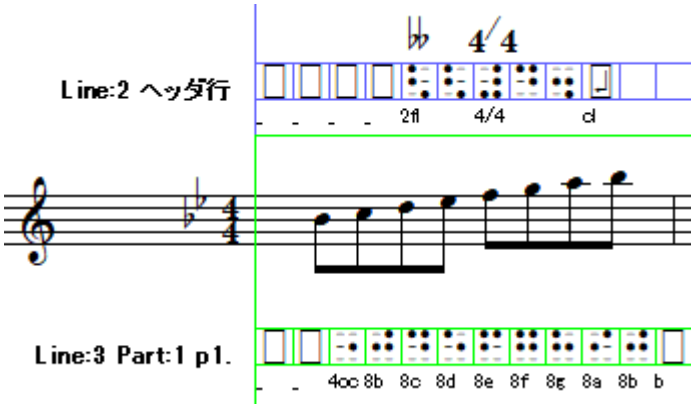
シャープ７つ　嬰ハ長調(主音はシャープ付きのド。ファ・ド・ソ・レ・ラ・ミ・シにシャープがつく)

主音にシャープが付くときは「嬰（えい）」が音階名に付きます。

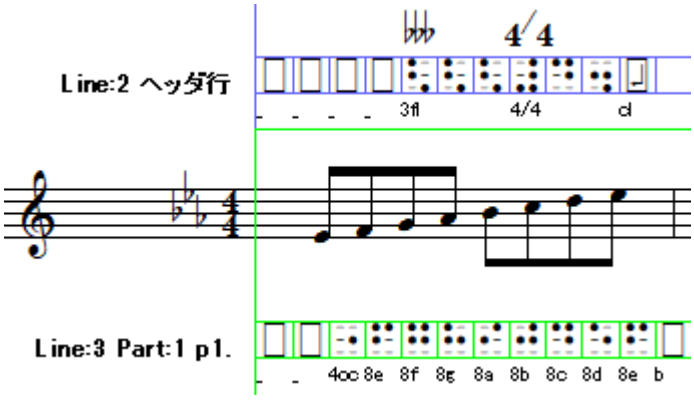
フラット1つ　ヘ長調（主音はファ。　シにフラットがつく）



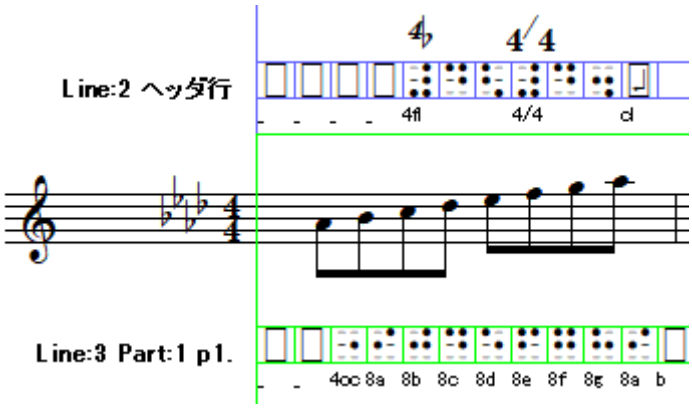
フラット2つ　変ロ長調（主音はフラット付きのシ。　シ・ミにフラットがつく）



フラット3つ　変ホ長調（主音はフラット付きのミ。　シ・ミ・ラにフラットがつく）



フラット4つ　変イ長調（主音はフラット付きのラ。　シ・ミ・ラ・レにフラットがつく）



以後、フラット5～7つは頻繁には使わないので省略します。

フラット5つ　変ニ長調（主音はフラット付きのレ。　シ・ミ・ラ・レ・ソにフラットがつく）

フラット6つ　変ト長調（主音はフラット付きのソ。　シ・ミ・ラ・レ・ソ・ドにフラットがつく）

フラット7つ　変ハ長調（主音はフラット付きのド＝シ。　シ・ミ・ラ・レ・ソ・ド・ファにフラットがつく）

主音にフラットが付くときは「変（へん）」が音階名に付きます。

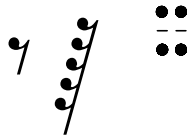
（7）休符

音楽は、音を出すところばかりではなく、音を出さないところもあります。音符の長さと同じように、音を出さない長さを表したものを「休符（きゅうふ）」と呼びます。

全休符・16分休符

2分休符・32分休符

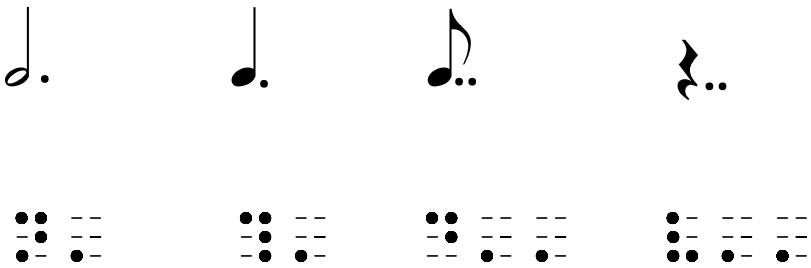
4分休符・64分休符

8分休符・128 分休符 

（8）付点

音符や休符の後に**付点**（ふてん）をつけると、つけた音符や休符の長さの半分を加えて、1.5 倍の長さになります。五線譜では記号の右側に点を書き、点字では、音符や休符の点字の直後に 3 の点をつけます。

付点を 2 個つける**複付点**は、つけた音符や休符の長さの 1/4 をさらに加えて、1+1/2+1/4 = 1.75 倍の長さになります。五線譜では記号の右側に点を 2 つ横に並べて書き、点字では音符や休符の点字の直後に 3 の点を 2 マスつけます。



付点 2 分音符　付点 4 分音符　複付点 8 分音符　複付点 4 分休符

それでは、ここまでの知識で読める楽譜を1つ載せておきます。いかがでしょうか。

いきなり読むのはちょっとと思われる方も、もう少し先を読み進んでから、もう一度、このページを開いてみてください。

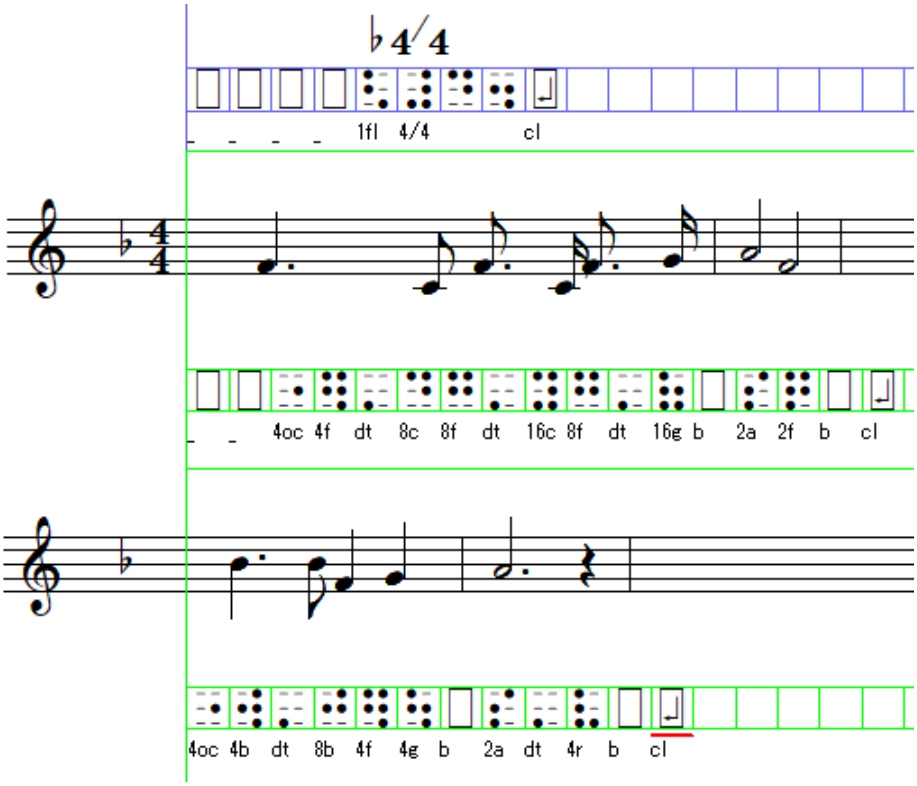


図 1．2.9 線路は続くよどこまでも